大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森岡, 次郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15795

編集後記

『人間科学』第13号をお届けいたします。今号は2本の論文を掲載しています。例年より数は少なめですが、いずれも力作・労作です。執筆者の方々には、貴重な研究成果をご寄稿いただき、ありがとうございました。

現代の大学では、数値化の圧力がとても高まっています。もちろん、本学に限った話ではありません。大学教員も、学生も、教育・研究組織も、成果を数値化（可視化）され、格付されています。研究業績数、指導学生数、担当授業数、公開講座数、外部資金獲得額、GPA、志願者数（入試倍率）、受験者の偏差値、授業外学習時間･･･。数値化される項目は、枚挙に暇がありません。

とはいえ、志願者が多い大学が「良い大学」とは限らず、指導学生が多い教員が「良い教員」とは限らず、GPAが高い学生が「良い学生」とは限らないことは、経験的に明らかです。にもかかわらず、日本中の大学が、自分たちの教育研究活動を遍く数値化し、そのスコアを上げるために躍起になっています。

数値化することが全く無意味だ、とは思いません。可視化によって重要な事柄が明らかになることもあるでしょう。スコアを上げることが「政治的」に重要であることも理解しています。

しかし、これらの数値は、教育や研究の「価値」とは関係がありません。私は「外形的（測定可能）な数値が高い大学（教育・研究組織）ほど存在価値が高い」という主張には同意できません。

大学における数値化と格付の狂騒から距離を取り、正気を保ち、教育や研究の「価値」についてクリティカルに問い直すこと。たとえば歴史的（哲学的、社会学的･･･）な観点から、大きなスケールで思考すること。現状において、人文科学系の研究者にこそ、こうした役割が求められているように思います。

2018年4月より、人間科学専攻は人間社会学専攻人間科学分野へと改組しました。本誌の執筆資格者は、人間社会学部人間科学科、人間社会システム科学研究科人間社会学専攻人間科学分野の教員となっていますが、編集委員会によって認められれば、その限りではありません。次号以降も、多くの方からのご投稿をお待ちしています。

新しい専攻がスタートし、本誌をどのような形としていくのかは今後の検討課題ですが、私たちの研究を発表する媒体は存続し続けます。多くの方が本誌を活用し、「人間科学」研究をより豊かに発展していけるように、微力ながら尽力していきたいと思います。

（文責　森岡次郎）